

みやぎきの文化を考える懇談会（第1回） 議事概要

日時：令和8年8月26日（水） 10:00～12:00

場所：県庁7号館 735号室

<議事概要>

- 計画でいう「県民」が誰を指すのか。ステークホルダーの観点を入れてはどうか。
- 伝統的な文化と新しい文化、どちらも振興していくことが必要。
- 伝統文化の継承には高齢化、担い手不足、資金不足、機会不足等様々な問題があり、アーカイブ化も保存継承の有効手段である。
- 地域の文化は、地域住民の意識によって存続が左右される。
- 文化の内部で楽しむ面、外に見せる面、どちらも重要。
- 地域の文化的景観は、活用することで景観そのものの維持や関係人口の増加等、地域づくりの手段となる。
- 年金支給開始年齢の引き上げが、定年後地域に関わる文化の担い手の減少につながっている。
- 美術館や博物館を飛び出した、身近な鑑賞機会が増えるとよい。
- 子供の文化鑑賞の機会には格差があり、子供の居場所に鑑賞機会をつくる必要がある。
- 子供の頃に文化を知り、体験する機会が、長い期間を経て文化活動や担い手確保につながる。
- 文化振興の指標は単純な数値で測るのではなく、人や地域にもたらす影響、長いスパンでの効果を測ることが必要。
- 障害者芸術に関する認知度・関心度の向上は課題
- 異なる文化分野でのコラボや、話題性の高いコンテンツの有効利用も必要。
- 文化鑑賞等の機会が少ない場所でも、独自に豊かな文化体験がある一方、いたるところで文化に触れられる機会の提供は必要。
- 情報発信が弱いため、もっと知ってもらい、関心を持ってもらうことが必要。
- 文化の身近さを伝え、ハードルを下げることで、自分も何らかの文化に触れていることを意識してもらうことが必要。